

令和6年度 洲本市自立支援型地域ケア個別会議の振り返り

令和7年3月 洲本市介護福祉課



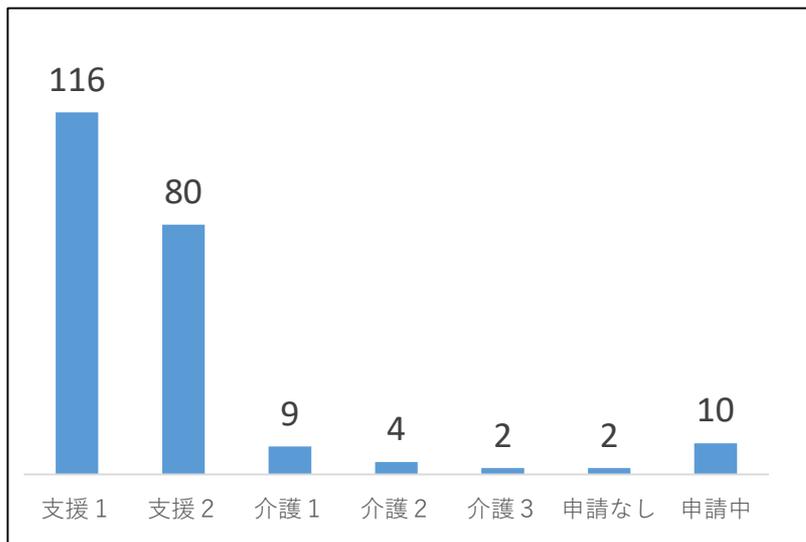
R6年度洲本市自立支援型地域ケア個別会議（R7.3月末時点）

開催回数（回）	36回
検討件数（件）	223件（延べ）

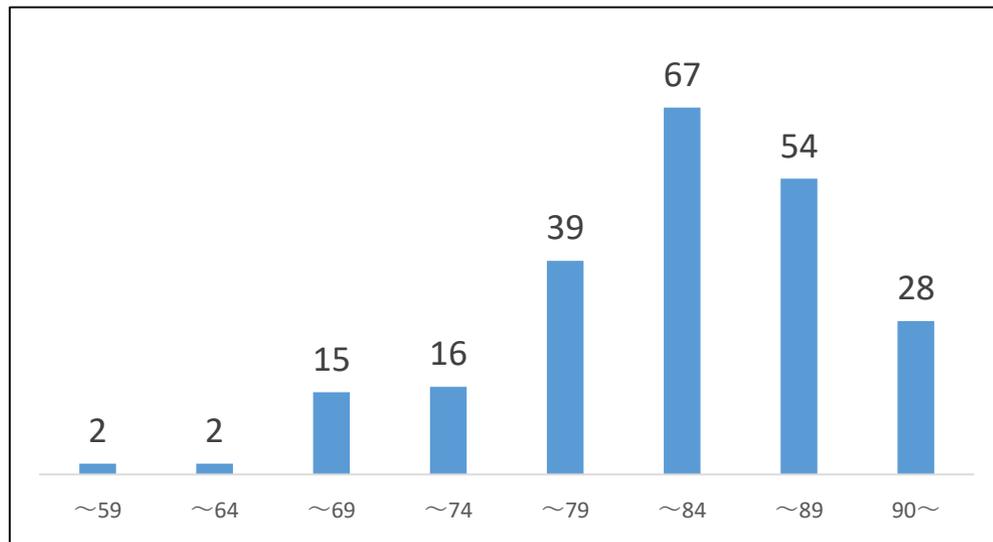
R6年度事例対象者と事例検討数

- ①トライ教室利用者（104件）
- ②ヘルパー回数が多い事例（1件）
- ③新規ケース、継続で検討したいケース（37件）
- ④生活保護受給者またはケースワーカーが気になるケース（6件）
- ⑤要介護1でデイケア利用者（0件）
- ⑥リハビリ教室利用者（3件）
- ⑦訪問相談、悉皆調査等で気になるケース（0件）
- ⑧モニタリングケース（72件）

R6年度事例検討介護度（人）



R6年度事例検討年齢（人）



自立支援型地域ケア個別会議の中で出てきた課題

○高齢者の傾向

- スマートフォンを遅くまで見て、生活リズムが乱れている方が増えている
- 栄養ドリンク、サプリメントなどの健康食品を購入される方が多い
- 多くの菓子パンを購入される、多くの菓子パンを摂取する方がいる
- 生活保護受給者、養護老人ホーム措置入所が増えている
- 夜間の頻尿に困っている方が多い

○フレイル

- 身体的フレイル（筋力低下、活動量の低下、栄養不足など）
- 精神・心理的フレイル（認知機能の低下、うつ、不安、意欲低下など）
- 社会的フレイル（孤独、経済的困窮、社会的役割の喪失、社会参加の低下など）
- オーラルフレイル（滑舌の低下、食べこぼし、むせ、嚙む力の低下、口渇、食欲不振など）
- ヒアリングフレイル（聞き間違いや聞き返しが増える、会話の聞き取りにくさ、交流を避けるなど）

○受け皿問題

- トライ教室終了後、引続きデイサービスにつながる方が多い
- デイサービスが閉所する事業所も出てきている
- ヘルパーの確保が難しい
- 男性は退職後の社会参加につながりにくい

○住環境の問題

- トイレが外、路地が狭く車が通れない、急な階段や急な坂道の上に自宅がある
- 津波、高潮の際に高齢者が高台まで移動するのが難しい
- 2階、3階で暮らしている方で階段昇降が不安

自立支援型地域ケア個別会議の中で出てきた課題

○移動手段の問題

- 自転車の運転が危ない
- タクシーや路線バスを利用したくてもできない地域がある
- タクシーが昼間でも利用しにくくなっている
- 路線バスをあまり利用しない
- 事故があった場合を想定すると、知り合い同士の送迎が難しくなる

○認知症

- 認知症、軽度認知障害（MCI）、認知症疑いのケースが増えている
- 夫婦ともが認知症
- 長期休暇で帰省した子どもが親の変化に気付き相談してくるケースが増えている
- 精神疾患なのか、認知症なのか判断が難しいケースも多い

○その他

- アルコールの問題、ソーシャルフレイルの問題
- 近隣とのトラブル
- 8050問題
- 運動し過ぎ、活動量が増えすぎなど、やりすぎの高齢者もいる
- 身寄りがない方の対応、外国籍の家族への対応、同居家族に精神疾患や障害を抱えている方への対応
- 家族全体をマネジメントする必要があるケースが増えている
- 転倒し骨折する問題（兵庫県は特に大腿骨頸部骨折の重傷者多い地域である）
- 家族による過介護でフレイルなるケース、介護負担で介護者が大変なケース、介護ストレス
- デイサービスを卒業するぐらいの身体機能だが、卒業すると低下するのではないかと思うケース
- 趣味活動、社会参加につながらない
- 地域によっては、通いの場がない、店舗も少ない、外出する場所がない

自立支援型地域ケア個別会議での効果

○薬剤師がアドバイザーにすることで

- 薬の飲み忘れに対しての対策を検討（一包化、訪問薬剤管理、お薬カレンダー、見守り支援など）
- 薬の副作用について検討（ふらつきや転倒、便秘、眠気、めまい、倦怠感、減薬への提言、飲み合わせの相談など）
- 多職種連携が強化（薬剤師への相談、調剤薬局への相談など）

○フレイルの早期発見と対応

- むせの回数が増加→言語聴覚士による身体機能評価と自主トレ方法のアドバイス
- 急に痩せてきた→栄養士による10品目チェック票やその人に対する栄養アドバイス
- 転倒や身体機能低下→リハビリ専門職による簡単な身体機能評価や自主トレの方法のアドバイス
- オーラルフレイル→歯科衛生士による口腔機能評価や自主トレ方法のアドバイス
- フレイルの啓発やフレイルのイベントを実施、フレイル予防健診や認知症予防健診の実施

○精神保健福祉士の方がアドバイザーにすることで

- 認知症や軽度認知障害の方への対応を検討
- 発達障害や精神疾患（うつ、統合失調症、不安障害、せん妄、睡眠障害）の方への対応を検討

○その他

- ケアプランの見直しやインフォーマルサービスの追加につながっている
- かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局が少しずつ増えている
- 血液データやお薬手帳の確認をするようになっている
- アドバイスにより簡単な料理ができるようになる（親子丼など）
- 専門職同士のつながりや職種の理解が深まっている。医療介護連携が少しずつ進んでいる
- 地域課題解決のための会議・イベント開催
 - 専門職向け：通所事業所連絡会、認知症になってもGENKIすもっと協議会、就労的活動支援検討会
 - 市民向け：健康安全運転講座、フットネス体験会、学び舎すもと、GENKIすもっとサポーター養成講座

R7年度 洲本市自立支援型地域ケア個別会議 出席アドバイザー職種一覧

	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目
アドバイザー	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師
	作業療法士	作業療法士	理学療法士	理学療法士	理学療法士
	精神保健福祉士	言語聴覚士		言語聴覚士	
	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士
	歯科衛生士	歯科衛生士	歯科衛生士	歯科衛生士	歯科衛生士
		主任介護支援専門員	主任介護支援専門員	主任介護支援専門員	主任介護支援専門員

R7年度事例対象者

- ①トライ教室利用者
- ②ヘルパー回数が多い事例
- ③新規ケース、継続で検討したいケース
- ④生活保護受給者またはケースワーカーが気になるケース
- ⑤要介護1でデイケア、デイサービス利用者
- ⑥リハビリ教室利用者
- ⑦訪問相談、悉皆調査で気になるケース
- ⑧モニタリングケース